

福岡市臨海リサイクルプラザおよび福岡市民防災センターへの 国内研修旅行についての報告

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教

渡辺 貴史



2月2日 福岡市民防災センターにて

【概要】

平成30年2月2日に、福岡市臨海リサイクルプラザおよび福岡市民防災センターへの国内研修旅行を行った。この研修にはグリーンアジアの学生が10名、教員1名の計11名が参加した。両見学地では、学生諸君は旺盛な学習意欲を示し、古紙再生のワークショップや防災の体験学習にも積極的に参加していた。また、各施設では担当者に質問をしたり、仲間同士で議論を交わすなど、終始活発な活動を続けた。期間中怪我や事故もなく、全員が充実した研修を行った。

【研修の目的】

本研修の目的は、九州北部の産業施設、あるいは地域の環境問題に関わる施設を訪問することによって、日本の産業および環境政策の現状を理解することにあった。特に留学生諸君に対しては、日本の現状を直接見ることによって、知見を深める機会を提供することにあった。さらに、留学生及び日本人学生諸君がともに行動し議論しあうことで、互いに刺激し合い友好関係を育む機会を提供することであった。またその過程で、英語によるコミュニケーション能力を向上させることにあった。

【日程】

日程は以下のようであった。移動はバス1台で行った。

2月2日(金)

09:30-10:15	伊都キャンパス発→筑紫キャンパス着
10:15-11:15	筑紫キャンパス発→福岡市臨海リサイクルプラザ
11:15-12:00	焼却施設内の見学、ビデオによる説明
12:00-13:00	リサイクルプラザの見学、再生紙をつかったハガキ作り、施設内見学
13:00-14:00	福岡市臨海リサイクルプラザ発→福岡市民防災センター着
14:00-14:45	昼食
15:00-16:00	福岡市民防災センターでの防災に関する講義およびQ&A
16:00-17:00	施設内の見学および地震や火災、洪水などの模擬体験
17:00-	現地解散

【学生への課題について】

まず学生は3~4名の小さなグループに分けられた。各グループではリーダーが1名ずつ指名され、彼らはグループ全員が支障なく研修を行えるように様々な配慮をするように求められた。また日本人学生および日本語に堪能な留学生は、研修全般を通じて、グループ内の他の留学生の通訳の役目を果たすよう求められた。

その上で、グリーンアジアの学生には、次のような課題が与えられた。

◎研修旅行前:

1. 見学に訪れる両工場について各自下調べをしておくこと、及び見学当日にすべき質問を各自少なくとも二つは考えておくこと。

◎研修旅行中:

1. 各グループのリーダーは、各メンバーが考えた質問内容を精査し、メンバーと相談の上で適切な質問を各訪問先につき2つ選択し、発表すること。
2. 各グループの語学が堪能な学生は、各施設で日本語の説明が行われた場合や質疑応答において、自分のグループのメンバーに対してわかりやすく英語に翻訳し説明すること。また、メンバーの英語での質問を日本語に翻訳して担当者に伝え、議論を円滑に進めるよう努力すること。

◎研修旅行後:

1. 各グループそれぞれがレポートを提出すること。
2. レポートの執筆にあたって、グループ内の各学生が、それぞれレポートの一章を受け持つこと。また、リーダーは、レポートの編集と提出について責任をもつこと。

【総評】

総勢11名の国内研修であったが、学生諸君はグループごとにリーダーの指導のもと、きびきびとした態度で熱心な学習意欲を見せ、つつがなく日程を終えることができた。工場見学及び技術者との質疑応答の際には、語学が堪能な学生が率先して翻訳し、また留学生が英語で質問する際には、分かりやすい日本語に翻訳して伝えていた。どの見学地においても、議論は熱心に続けられ、学生諸君からの質問が絶えることはなかった。防災センターでは震度7の地震を疑似体験し、また火災の際の消火作業を実際に行って適切な手順を学ぶなどした。これらの体験は特に留学生にとって新鮮だったようで、彼らは指導員の話に熱心に聞き入っていた。

課題であるレポートは、すべての各グループから締め切り前に提出された。提出されたレポートは、いずれも英文レポートとしての体裁を整えており、また規定の文字数を満たした内容の濃いものに仕上がっていた。

以上のことから、今回の国内研修は、十分にその目的を達成したものであると思われる。